

遺言公正証書(案)

本職は、遺言者 〇〇〇〇 の嘱託により、後記証人 2 名の立会をもって、遺言者から次の遺言趣旨の口授を受け、その口述を筆記してこの証書を作成する。

遺言者は次のとおり遺言する。

第 1 条 遺言者は、遺言者の有する債権を含むすべての財産及びすべての財産及びすべての債務を遺言者の長男 〇〇〇〇 (昭和 〇〇 年 〇 月 〇 日生) に相続させる。

第 2 条 遺言者は、この遺言の執行者として前記遺言者の長男 〇〇〇〇 を指定する。

2 遺言執行者は、この遺言の執行のため、相続人の同意を得ることなく、遺言者名義の預貯金等の名義変更、解約及び払戻し並びに金融機関における遺言者の権利に属する貸金庫の開扉及びその内容物の取出しの権限を有し、その他この遺言の執行に必要な一切の権限を有する。

[付言事項]

夫亡き後も、〇〇〇〇 はずっと一緒に暮らしてくれました。私の生活一切の面倒や本家の代表として頑ん張ってくれて感謝しています。

平成 17 年以降は介護が必要となりました。家での献身的な介護のお陰で今はリハビリ施設で頑ん張っていられます。

皆には本家を守ってもらう為にも、この遺言を理解してください。

そしてなによりも今後兄弟姉妹が争う事なく、仲良くしてもらうことを心より願っています。

母より

以上

本 旨 外 要 件

無職

遺言者

大正 年 月 日

上記は印鑑証明書の提出により人違いでないことを証明させた。

司法書士

証人

平成 年 月 日生

司法書士

証人

平成 年 月 日生

以上を遺言者及び証人に読み聞かせたところ各自筆記の正確なことを承認し次に署名押印する。

この証書は民法第 969 条第 1 号乃至第 4 号所定の方式に従いこれを作成し同条第 5 号に基づき本職次に署名押印する。

平成 年 月 日

所在の介護老人保健施設

において